

風のように

甘木教会



牧師：竹田孝一

8神である主、今おられ、かつておられ、やがて来られる方、全能者がこう言われる。「わたしはアルファであり、オメガである。ヨハネ黙示録1：8

しかし、実際、わたしの国はこの世には属していない。」 37そこでピラトが、「それでは、やはり王なのか」と言うと、イエスはお答えになった。「わたしが王だとは、あなたが言っていることです。わたしは真理について証しをするために生まれ、そのためにこの世に来た。真理に属する人は皆、わたしの声を聞く。」
ヨハネによる福音書 18:36～37

【説教要旨】

教会の暦、教会暦は、今週で一年を閉じます。皆さんはこの激変時代を生きて閉じるにあたり、どのような思いでいますか。今年、70歳で引退し、71歳を8月に迎えて人生の終わりを強く、日々意識し始めました。ですから、いつも悔いない一日を過ごそうと思っていますが、そうはうまくいきませんね。私自身は悔いがたくさん残る一年だったと思っています。

また、引退でしたが、甘木教会、久留米、羽村の幼稚園と関わることで、激変する時代と対話せざるおえなくなりました。激変していく社会の中で、教会の伝道が時代に通じないことをひしひしと感じていますし、自分自身が、時代に応えていけないこと、今までの価値観ではどうしようもないということをつくづく感じさせられています。今の時代は、理性、真実、歴史ということに懐疑的で、何が正しいあるいは真実であるということに懐疑的であるということです。ですから何が正しいかと

いうことを求めていくこと、あるいは真実であるキリストの愛を伝えるという教会を生きる私たちは生きづらいものです。しかし、こういう時代だからこそ、何が正しく、真理であるキリストの愛を深く理解することが大切です。そして私たちと違う時代の流れがあっても時代と向かい合い、共通の基盤を開いていかなければなりません。

いつも教会は、教会に集う私たち一人一人は時代という大きな流れで生き、時代の壁にぶつかり、立ち往生しながら、時代と対話し、時代を拓き、真理、神の愛を時代と共通基盤を作り進んできたのが教会の歴史です。確かに今の時代は、終わりが近づきつつある予兆を示す出来事が起き、私たちは立ち往生しています。教会が常に聞いてきた言葉は次の言葉です。

神である主、今おられ、かつておられ、やがて来られる方、全能者がこう言われる。「わたしはアルファであり、オメガである。」ヨハネ黙示録1：8

私たちの初め、 α においても、最後、 Ω においても、私たちは、イエス・キリスト、神のものであるということです。今日の詩篇交読、93篇、「ヤハウェは王となられた」という讚美するように私たちの王となって、私たちの生きる世界に来られ、私たちを支配されるのです。イエス・キリストの愛から遥かに離れている世界があっても、たとえそうでもあっても世界の王となられ、私たちを支配されているということです。その信仰が確かにしていきましょう。

「**主こそ王**」ということについて、雨宮慧司祭は次のように書いておられます。（「小石のひびき」女子パウロ会）

「イエスはユダヤ人の『王』として誕生し、『王』としてエルサレムに入城し、終わりの日には『王』として最後の裁きを行います。イエスは確かに王ですが、民が望んでいた政治的な権力者でも、民衆の空腹を満たすだけの便利屋でもありません。民がイエスを『王』にしようとしたとき山に退いてしまいます。……今週の福音では、ピラトがイエスに『おまえがユダヤ人の王か』と問いかけます。ユダヤ人たちは異邦人

の汚れを嫌って、官邸の外にいましたから、この問いはイエスひとりが立つところで発せられています。ピラトが口にした『おまえが』には、およそ王らしくないイエスの風采への驚きと軽蔑が込められています。

イエスは動ずることなく、「わたしの国は、この世に属していない」と答えます。ここで『国』と訳された語は『王』と同根の言葉ですから、イエスは自分が王であることを暗に認めています。

イエスを『王』と告白する者は、自分がこの世に属してはいないと宣言し、イエスの国での生き方をこの世に示します」

今の激変していく世にあって、私たちは世に吹きまくる見える嵐のみが私たちを支配し、私たちを脅かしているように感じます。ここは人の支配するところです。ここに私たちは生きつつ同時にイエスを『王』と告白する者は、自分がこの世に属してはいないと宣言し、イエスの国での生きるのです。

では、イエスの国での生きるとは、どういうことでしょうか。

真理、「神は愛です」という世を生きるのです。真理、私たちは神に愛された存在であるということです。同時に私たちはこの世に窓口をひらき、対話し、向かい合っていくとき、たとえ神の支配から遠い世であってもこの世も神の愛で貫かれているという共通基盤を作りあげていくことが、イエスの国での生きる者であるということです。

私たちは激変する社会にあって、私たちも苦しみ、隣人も苦しんでいます。この苦しみの社会も神の支配、愛が貫かれている目を持つものとされた目は、この世の苦しみを負う勇気が与えられ、苦しみから逃げない、そして、神の愛を具現化していこうと信仰の証へと導かれるのです。これが伝道です。この世と向かい合って、私たち一人一人が世の時代という大きな流れで生き、時代の壁にぶつかり、立ち往生しながら、時代と対話し、時代を拓き、真理、神の愛をこの時代と共通基盤を作り進んでいく伝道を共にしていきましょう。



四海穏やか、天下泰平というのはただ偶然にめになるよ
 そうなるというのではなくして、世界を確固不動にして
 くださる神がいらっしゃるといことが当然前提になっ
 ています。・・・・、この世界は確固不動なので
 す。・・・・神に頼っている限り平安だということ
 です。

「詩篇講話下」北森嘉蔵著 教文館

世界は主の支配

聖書の原語から自国の日本語に訳すことは難しいもので、聖書によって、訳が微妙に違ってきます。詩篇93篇の最初の言葉も新共同訳は「**主こそ王**」と訳し、月本氏の私訳は「**ヤハウエは王となられた**」となっています。神こそ全地の王であるということでは、同じですが、「**王となられた**」というとき、天上の神がわざわざ私たちの全地の王となられたということの意味しているよう感じられる。それはクリスマスのメッセージではないでしょうか。課題の多い罪深い全地を支配されているのも神であるということです。そして、この世のどんな力に勝って力を働かされ、秩序正しく作られているというのです。

今の世界、右をむいても、左もむいても暗闇の悪の支配している世界しか見えない。そんな世界に私たちは押しつぶされていきそうになる。希望がもてなくなりそうになる。

しかし、この世界に王となって存在されている方がおられるのです。

「言葉（イエス・キリスト）は、肉となって、わたしたちの間に宿られた。」（ヨハネによる福音書1：14）です。このかたこそ、私たちを支配されていることを信じて、私たちのなすべきことをなしていきましょう。

祈り：神よ、あなたの支配があることを信じさせてください。たとえ暗闇の世界もあなたの世界と信じる事が出来ますように。アーメン。

牧師室の小窓からのぞいてみると



世相が決してキリスト者にとって良い時代ではない、世の終わりが近づいているような気持ちに私は襲われます。

トランプ新大統領を支持し、支えているのはアメリカの保守派と言われる人たちです。私たちが持っているキリストの教えからするとどうして、彼を支持するのか理解しがたいのです。

しかし、私がアメリカ保守派の人の考えをどれほど知っているかとなると知らないということです。

だからこそ、私は知らないといけないとこの頃思うようになりました。それと同時に私のキリスト教感をしっかりと受け止めていないと思います。多様性の中、会話をしつつ、自分のキリスト教感を説明できる必要を感じます。恐れてはいけないと思います。

イエスさまは、あなたが弁明するのでなく、弁明できるように聖霊を遣わすということをおられます。



園長・瞑想？迷走記

この頃、保育の現場に入ることが多くなった。そこでいつも壁にぶつかるのは、私の性格で子ども一人一人をあるべき must のベクトルが動く自分がある。いやいや、be である姿、ありのままの自分をまず受け入れることだと自分に言い聞かせながら、ありのままの子どもらと接しれるようにと祈っている。

3人の園児が遊び時間が終わり、部屋に戻らず遊んでいる。先生らには自分があるから大丈夫だよと言って、傍にいた。

「うん、遊びたいしなあ、いやいや部屋に入れるべきではないか」とかってに自分が葛藤している。子どもらは構わず、楽しく遊んでいる。時間は過ぎていくだけである。時間は流れて、そのうちに子どもたちの事情で、かってに部屋に帰って行った。よあつたと深いため息。瞑想、迷走している自分。

甘木通信

読書

先日、「毎日、旧約新約の聖書をノートに日本語と英語1ページ書くのを日課にしています。ノート2冊目になります。死ぬまで続けたいと思います。」

というメールが来ていたので、懐かくなり、お声も聞きたくなり、久しぶりに石垣島におられるT姉に電話をした。そこでフィリピンの子どもたちがいるので英語がどうしても必要だと話していると「こどもは容赦ないから、通じなったら振り向きませんよ。でもこれが勉強になりますよ」

「聖書、『THE CHILDREN'S BIBLE』を1000回読むむと会話程度はできるんじゃないでしょうか。」と。自分の怠慢さを見透かされ、励まされました。

さっそくといきたいところだが、形から入る私はなかなか手についていない。本を見つけたし、来週から始めよう。

T姉も80歳をこえられたと思う。機会を見て、元気をもらいに石垣島にいこうかとふと思った。そういえば、「祈るんだ」といって、ブラジルからわざわざ石垣島の聖公会の教会へ行き、弓場司祭も働いていたことを思い出した。名古屋でのアシュラムも、石垣島で開いた。多くの思い出を石垣島から、T姉からいただいた。思い出を尋ねて出かけようと思つた。

歳を取る分、多くの思い出をいただいている。思い出は心の栄養となると実感しているのは、若い時に想像も出来なかった。すべてに、神は用意をしてくださっている信じることができるようになった。



(甘木日記)土) 実習先でお会いして40数年前、その時、保育に並ならない気迫を漂わせた柴田愛子さんが久留米で話をくださる。誰が想像したか。夜は幼稚園のお父さんとクリスマスの打ち合わせ。日) 礼拝後、ミニバザーの準備。5時まで、感謝。月) 久しぶりに石垣島のTさんと電話話。勇気をいただく。火) 今日現場で、保育の楽しさをいただく。水) 難しい本と悪戦葛藤。木) 園児らと銀杏の黄葉を見に行くが黄葉してない。温暖化のため金) 今日ミニバザーの準備だが、幼稚園で行けない。

おまけ・牧師のぐち (続日記) 牧師だって神さまの前でぐちります。 ぐちらない聖人(牧師)もいますが。



土) 今日は、柴田愛子さんが幼稚園で講演をくださり、2園、1保育園の保護者、保育士が聞かれた。いつもの魅力ある話は心を揺さぶった。満たされた時間であった。夜6時から幼稚園のお父さん方とクリスマスの祝会の劇について話し合い。家内は先に甘木教会へ行く。日)いつものように早朝に起きて庭掃除。め

(どんぐりの実) っきり秋から冬へと変わっている。礼拝後、ミニバザーの準備、役員会。今日も久留米まで送っていただく。温かい心に支えられている。帰り羽村幼稚園の管理者会議の準備。0時を越している。早め早めに限る。憂う政治状況が続いている。どうなるか深いため息。月)いつもの日々が始まる。このいつもが大切。伝道の現場にいて苦しみ、悩んでいる現場の牧師を引退者が勇気づけるために何をしたらよいかと考え、祈っている。石垣島のt姉からメールをいただいていたので電話をしたくなる。フィリピンの子どもたちと英語で気持ちを汲み取るには、中学生程度の英語の聖書を1,000回読むといいですよと。いつも身を引き締められる言葉を

いただく。火) 急激に寒くなる。東京の病院から久留米の病院に主治医を変えた。一抹の寂しさがあった。部屋に入らない子どもらと一緒にいる。無理やりでなくゆっくりと。無事に3人が部屋に戻る。ほっと。そもそも部屋に入れることかなと一瞬思う。水) 半日、通園バスが帰ってくるまで電話の当番をしながら待つ。次は、職員会議か。



木) 银杏の葉の黄葉した広場に園児らと出かけが黄葉していない。広場の方が教えてくれたのだが今年の夏の暑さ、雨量の不足で黄葉がうま(本来の黄葉したとき)

くっていないということだった。ここの银杏はぎんなんをとるための接ぎ木されたもので、枝が幾枝も出ている。つまりぎんなん畑?であったのである。しかし、これも面白い。子どもたちは、黄葉していようがいまいが広場で楽しく遊んでいる子どもらを見ながら来年はもっと黄葉した银杏を見せたい。ぎんなんを購入。金)今日は明日の甘木のミニバザー準備。主任の体調が



悪く、幼稚園に残る。家内に任せる。終われば甘木に行こう。